

# 海士町が迎えて来たまちづくり視察旅行の研究

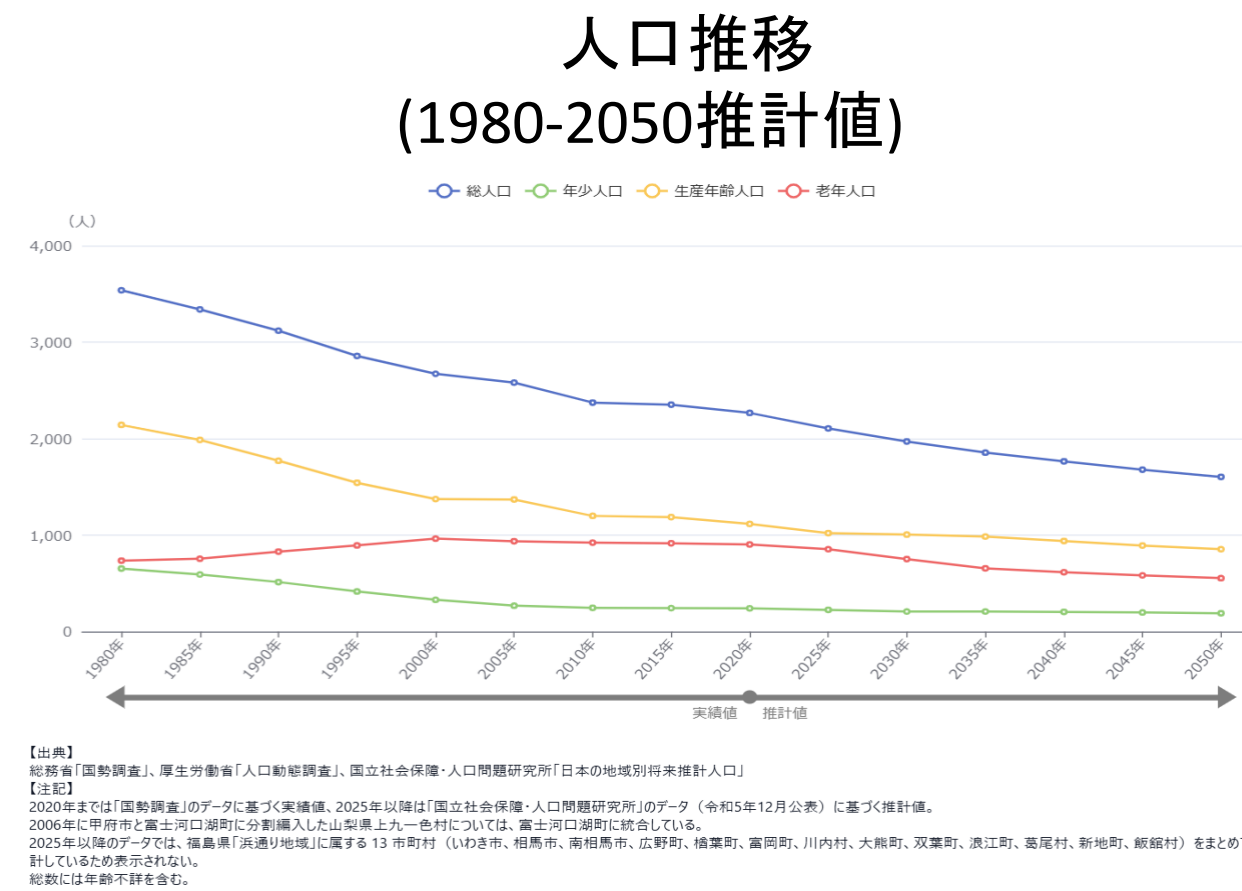
島根県立大学松江キャンパス  
地域文化学科 観光地デザイン研究室(小長谷ゼミ)  
大谷 寧花、漆畑 珠里、黒田 鈴乃、西岡 良

## 海士町について



・人口は2,267人(R2国勢調査)。昭和25年には約7,000人いた人口が50年ほどで1/3以下に減少している。

- ・島根半島の沖合約60kmに浮かぶ面積33.43km<sup>2</sup>の島。島前の一島。
- ・豊かな海と豊富な湧水に恵まれた半農半漁の島。
- ・七類港や境港からフェリーか高速ジェットで約2、3時間。



## 研究の目的

ある土地のまちづくりを視察に来る人たちは、国策「観光まちづくり」(2000~)が地域社会を改良するという政策的シナリオの旅人=交流人口像の当初的なイメージに、観光客一般よりも合致する。興味深い旅行者である。

海士町は、行政関係、大学関係、そのほか多くの視察者を迎えてきた。まちづくり視察の名所的な町だ。

すなわち、まちづくり視察という行為、視察来訪者の姿、および視察を介した地域と他地の者との関係性構築経緯などをより実態的に捉えるケーススタディに適している。

視察を迎えてきた海士町の役場周辺の人たちがこれまでどのようにまちづくり視察者を迎えたのか、時代時代で何が視察者の関心の対象となっていたか、町は視察への対応をどのように考え、何を伝えようとしてきたのか、さらには、視察者とのやりとりの中でどのようなことを見いだしたかなどへの接近を、本研究は目論んだ。

## 海士町への視察増加につながったまちづくりのポイント

海士町は、人口減少や高齢化、財政難といった多くの自治体が抱える課題に対して、地域資源を活かした独自のまちづくりに挑戦し奏功した。

年代	財政削減(守りの戦略)	「CAS」の導入(攻めの戦略)	高校の魅力化
2000	2001 地方債 約101.5億円(海士町提供資料)	2000 養殖岩ガキの開始(脱サラ・ターンが仕掛人)	隠岐島前 教育魅力化 プロジェクト
2002	2002 山内町長 就任	2002 岩ガキ「春香」ブランド化	
2005	2004~自立促進プラン(公務員の給与カット)	2005 「CAS」の導入	2008.3 魅力化プロジェクト 「隠岐島前高等学校の魅力化と永遠の発展の会」発足
2010	2010 地方債 約70億円近くまで減る(島根県財政状況資料集)	2011 売上高2億36万円(当期約853万円の黒字決算)	2010.4 「魅力化構想」策定
2015			2010.6 学校地域連携型公立塾 「隠岐国学習センター」設立
			2011.4 「地域創造コース」「特別進学コース」発足

## 視察受け入れの影響や問題

### 視察者増加に伴う受入れ体制の変化

#### 視察の増加

平成18年頃から視察が増え始めた。岩ガキや隠岐牛などの産業振興や高校の魅力化を行った頃。1年間で2000人海士町に学びたい視察者が来訪。

#### 産業創出課

現町長が当時の担当者として視察を全て引き受け、毎日のように視察対応をしていた。次第に多くなる視察数に対応しきれなくなり総務課へ業務の移行を行った。

#### 総務課

元町長が引き継いだ。元々増え続けていく視察数に総務課でも対応できなくなり観光協会(交流促進課)へ移行を行った。

#### 観光協会(with交流促進課)

総務課から引き継ぎ、初めて有料化する視点を導入した。それでも視察の数は増える一方で、更に料金を高く、頻度も月に一度の合同視察に決定づけた。(10年ほど続いた)

令和5年12月 海士町への行政視察はAMAホールディングス(株)「半官半X」式で交流促進課職員も兼務)が対応、コーディネートするかたちで着地型旅行的に商品化。

### 視察受け入れの影響

- ・地域活性化のため外貨獲得(攻めの戦略)の手段として確立
- ・内々だけでなく公的な社会全体へのアプローチを視察によって可能に
- ・他地域のまちづくり事例と互いに触発しあうことでの好影響の発生

### 視察地としての人気に伴う問題

- ・視察者増加による担当機関の疲弊
- ・視察の目的の変化(視察することそのものを目的とする人、海士町とは関係のない問題の解決を求める人などの増加)

## まとめ

### 視察地としての人気に伴う問題

視察対応の負担増 → 担当機関の疲弊

### 視察の目的の変化

- ・海士町視察そのものが目的化するケース
- ・海士町と無関係な課題を持ち込む視察者

### 海士町が働きかけるべき今後の視察のデザイン

- ✓ 視察受け入れの適正管理
- ✓ 視察者とのネットワーク構築
- ✓ 視察の質向上(双方向の学びの場へ)

地域と視察者双方にとって有益な視察の確立

### ゼミ生からの感想

海士町への視察調査では、地域資源を有効に活用しながら持続可能な地域づくりを進めている様子に強い印象を受けました。特に、町全体での一体感と、住民と行政が連携している点が大きな成果を生んでいると感じました。

このような地域づくりの取り組みは、他の地域でも応用可能であり、特に地方創生や持続可能な開発に向けた重要な示唆を与えてくれると感じました。

